

故 藤井正美先生 追悼文

日本食品化学学会の設立者のお一人でした、藤井正美先生が2019年7月23日にご逝去されました。謹んで会員各位にお知らせ申し上げます。

藤井先生は、1954年に大阪大学医学部薬学科を卒業後、同大学院修了、1958年厚生省入省、薬務局、科学技術庁出向、環境衛生局、1971年環境庁出向、大気調査官、保健調査室長を経て、1979年厚生省食品化学課長に就任、1983年に退官されました。退官後の同年、神戸学院大学薬学部教授となり、2001年に退官されました。また、兵庫県公害審査会会長、同環境影響評価審査会会長、同産業廃棄物審議会委員を歴任され、各分野において、多くの業績を残されました。



藤井先生は、本学会の設立者の一人で、添加物行政の経験から、食品および食品に関連する化学物質の安全性データの学術的価値、公表の必要性を唱え、本学会を立ち上げられました。1997年副理事長、1998年から1999年まで理事長を務められました。また、本学会の3大事業の学術大会、食品化学シンポジウム、及び学術誌刊行の礎を築かれたと言っても過言ではありません。

第1回学術大会では、当時の厚生省生活局食品化学課の中垣俊郎課長補佐（厚生省生活局食品化学課）が特別講演をされ、その講演を藤井先生が座長を務められました。その後、毎年学術大会の目玉の1つとして厚生労働省担当官による特別講演をしていただくようになりました。第2回は、大会長を務められ、東京ビッグサイトで開催されました。この大会以降、東京ビッグサイトは本学会の大会の恒例の会場となりました。

1995年10月の第1回食品化学シンポジウム「食品衛生法改正と天然添加物をめぐって」は、食品衛生法の改正で既存添加物の制度が定められた直後のシンポジウムで、藤井先生は第一演者として講演されました。食品化学シンポジウムでその時々的重要なテーマを取り上げるという理念は今も受け継がれています。1998年には、「内分泌かく乱化学物質をめぐる生活と食の安全について」の国際シンポジウムが盛大に開催されました。当時理事長の藤井先生は開催にご尽力され、自らも講演されました。本シンポジウムの開催により、本学会が社会的に認知されたともいえ、その後の本学会の発展にとって大きな契機になったことは間違いありません。

学術誌の刊行においては、本学会誌の初代編集委員長を5年間務められました。単なる調査データ、あるいは研究結果がネガティブデータであっても審査委員会が食品化学の発展あるいは会員の学術理解において科学性ありと判断した場合は掲載することを特色としています。これは当時まだ、一般的ではなかったリスク評価、リスク管理の観点においても重要な要素であり、レギュラトリーサイエンスの発展にも寄与したと考えております。

本学会におけるご功績は、藤井先生が先見性と深い学識をお持ちであると共に、人一倍の実行力をお持ちであったからに他ありません。藤井先生がご逝去されたことは、本学会にとって大きな支えを失ったこととなりますが、本学会の発展を藤井先生にお約束し、日本食品化学学会を代表して、ここに藤井先生の本学会に対するご尽力に深く感謝の意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(今井田 克己)